

乳牛の効果的な夏バテ対策

— 対策が手遅れにならないために —



愛媛県畜産研究センター

乳牛の暑さの感じ方 (牛の体感温度を知ろう！)



乳牛は人よりも低い温度から暑さを感じています。そのため、人の感覚で夏バテ対策を行うと手遅れになります！

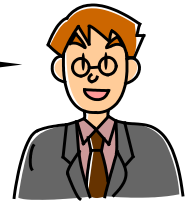


乳牛の暑さの感じ方を知る方法

- ・人に不快指数があるように牛の暑さの感覚を温度と湿度で表す方法として**牛の体感温度**があります。

牛の体感温度…乾球温度×0.35+湿球温度×0.65

牛は豚や鶏より湿度の影響を受けやすく、気温だけでなく湿度も考慮することが夏バテ対策の効果を上げるために必要です。

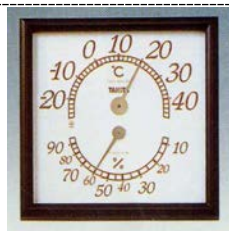


体感温度を計算するのは面倒だし、簡単にわかる方法はないの？

乳牛の体感温度早見表があります。温湿度計と一緒に牛舎内に貼っておくと、簡単に体感温度を知ることができます。



体感温度を計算するには通常、乾球・湿球温度計を用いますが、本パンフレットでは気温・相対湿度計を用いても体感温度が算出できるように2種類の表を示しています。



↑ 気温・相対湿度計

← 乾球・湿球温度計

・温度計は直射日光や風が当たらない場所に、牛の肩の高さ（約1.5m）で設置してください。

・温度計・早見表は作業中によく目のつく場所に設置しましょう。



体感温度早見表の使い方 (自分の牛舎内の体感温度を測ろう！)

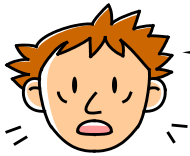
乾球・湿球温度計の場合

横欄の乾球温度と縦欄の乾球温度と湿球温度の差が交わるところが体感温度になります。

気温・相対湿度計の場合

横欄の気温（乾球温度）と縦欄の相対湿度の交わるところが体感温度になります。

乾球温度が21℃で、湿球温度が18℃では縦欄の温度の差は3℃だから体感温度は19.1℃になります。



なぜ体感温度早見表は色分けされているの？

緑色 に塗られている体感温度は**安全**。乳牛が暑さを感じていない快適な体感温度です。

黄色 に塗られている体感温度は**注意**。乳牛が暑さを感じ始める温度です。呼吸数・体温が上昇し始めます。送風機等の**夏バテ対策を開始**してください。

赤色 に塗られている体感温度は**危険**。体温は正常値を大きく越え、餌の摂取量・乳量が大きく低下します。

ポクポク
暑いんだがら...

朝の搾乳前、
昼の給与時、
夕の帰宅前の
3回は体感温度を
チェックしてね！



注意

・早見表は1日の乳量が約30kgの牛を基準に作成していますが、乳量の多い牛は低い体感温度から夏バテが始まります。乳量が30kgから10kg増える毎に早見表の約1℃低い体感温度の色を参考としてください。

・夏バテの発現は個体差があります。牛群の観察を行い、特に暑さに弱い牛がいたら、その牛を基準に対策を行いましょう。

乳量が40kgの牛の場合、体感温度が約18℃から注意、約24℃から危険になります。

